

■ デジピーターのSSIDについて

2009/08/07 JF1AJE

デジピーター局の発信ビーコンに付帯するSSIDは、主にその局の属性（区別）を表すために用いられ、現時点では以下を推奨いたします。

★推奨設定

- (1) 狭中域 (Fill-in) デジピーター : -1
- (2) 広域 (WIDEN-N) デジピーター : -3
- (3) 9.6Kbps デジピーター : -2

(1) と (2) は APRS-WG がアナウンスしているガイドラインに則った指定です。

(3) は米国において既にシアトル等で普及しており、日本では既に九州が実用化、関東の一部で有効性の評価中である9.6Kbps用デジピーターです。

デジピーターの属性（区別）がよく分からない方、SSIDの変更が容易でない局については、現時点（移行期）では”-3”のまま、順次移行して頂ければ幸いです。（何故なら日本の場合、現時点で多くの局が”-3”は「デジピーター」であるという共通認識を持っているから）

デジピーターの場合は、むしろ「The NEW WIDEN-N Paradigm」に則ったコメント表記（PHGR等）、シンボル選択を行うことのほうが遥かに重要です。

*Fill-in Digipeaterとは、周囲十数Km程度以内を走行する移動局の packets をWIDEN-N DigipeaterやIGATE局まで中継する為に設置された中継局。

*WIDEN-N Digipeaterとは主に山頂等に設置され、周囲数十Km以上離隔した移動局や固定局の packets を中継することができる中継局。

■ 日本は”-3”が多い理由

少し前までは-1, -2, -3, -4は固定局及びデジ局用のSSIDとして、区別はありませんでした (<http://www.aprs.org/aprs11/SSIDs.txt>)。また、その頃基本的にデジピーターは”-3”が使われており、その流れをひいて日本ではFill-inもWIDEN-Nも殆どが”-3”となっています。過去のJAPRSXの解説も”-3”を推奨しています。

■ 日本の事情

SSIDのガイドラインに限りませんが、その国の事情、運用状況が各ガイドラインに適合するものか否かも、どこまで準拠するかの判断基準になろうかと思えます。例えばVoice Alartは電波法の関係で日本ではオリジナル仕様のまま運用することが出来ません。

本稿で解説しているSSIDは最近のもので、The NEW WIDEn-N Paradigmの普及に伴ってFill-inとかWIDEn-Nの区別まで意識した内容になっています。(因みに”-1”がFill-inデジピーターのSSIDとなっているのは、Fill-inデジピーターのエリアスがWIDE1-1であることから由来しているようです。)

米国ではFill-inの比率は低く、WIDEn-Nをメインとしてネットワークが構築されています。一方日本ではFill-inが圧倒的多数です。この辺も米国と日本とは大きく異なっている部分です。

APRS-WGのガイドラインでは”-3”はWIDEn-NデジピーターのSSIDとなっています。つまり米国の場合はわざわざ山登りをして山頂デジピーターのSSIDを変更せずとも、以前の”-3”が引き継げる場合が多いという配慮が見受けられます。一方日本ではFill-inが圧倒的多数です。さすがに山頂にFill-inは無いでしょうが、平野などのFill-inでもUI-Dig i (ROM) を使用している場合、SSIDの変更は少し面倒ですが、順次移行頂けますと幸いです。

■ 参考

北米、欧州においてデジピーターシンボルでビーコン発信している局の、SSIDの利用比率を下記に掲載しておきます。

[SSIDの利用比率](#)

■ その他

一部の方々に配布させて頂いておりますデジピーターに関する設定パラメーターとその解説書は、2年以上前に作成した解説書がベースになっているため、デジピーターのSSIDは”-3”が国際標準と解説されています。訂正をお願い致します。